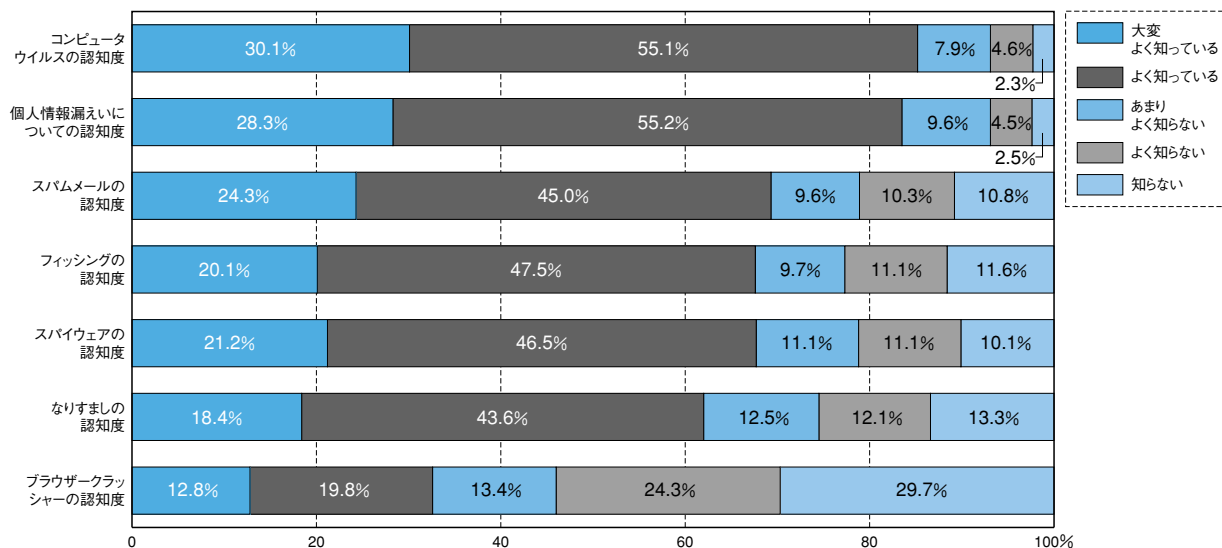


被害経験と対策

有害情報の認知は全体的に高い

資料2-10-1 有害情報の知識 N=1,705

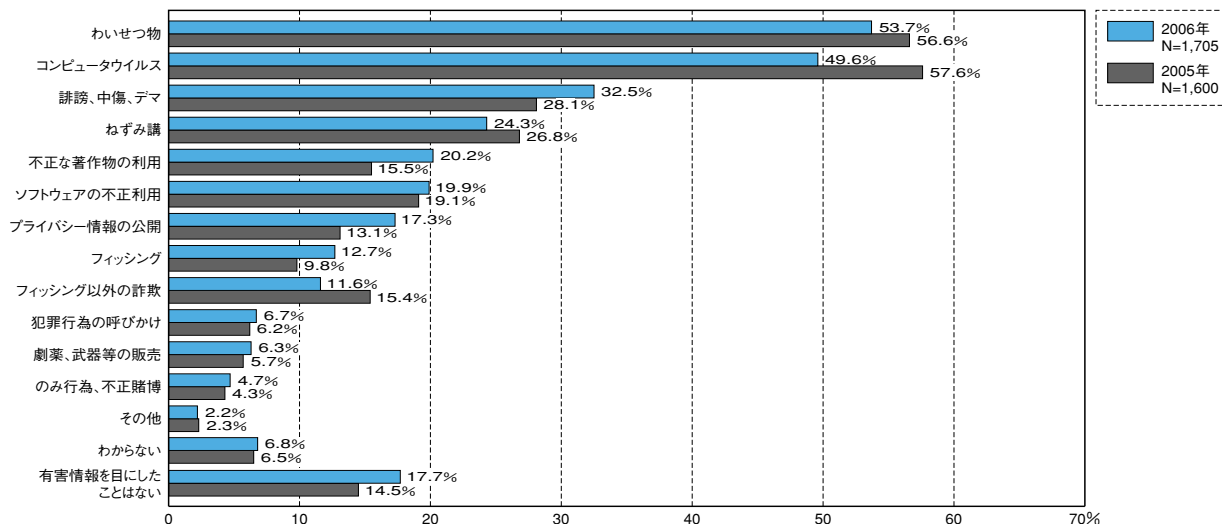


©Access Media/impress R&D,2006

有害情報であるスパム、ウイルスなどについての認知状況を調べた結果である。昨今、ウイルスや個人情報漏えい問題が頻繁に世間を騒がしているだけに、有害情報の認知度は「ブラウザークラッシャー」を除くすべてにおいて高い。全体的にインターネット利用歴10年以上のユーザーの有害情報に対する認知度が高い。

わいせつ物、コンピュータウイルスが接触状況上位

資料2-10-2 有害情報への接触状況（複数回答）[2005年-2006年]



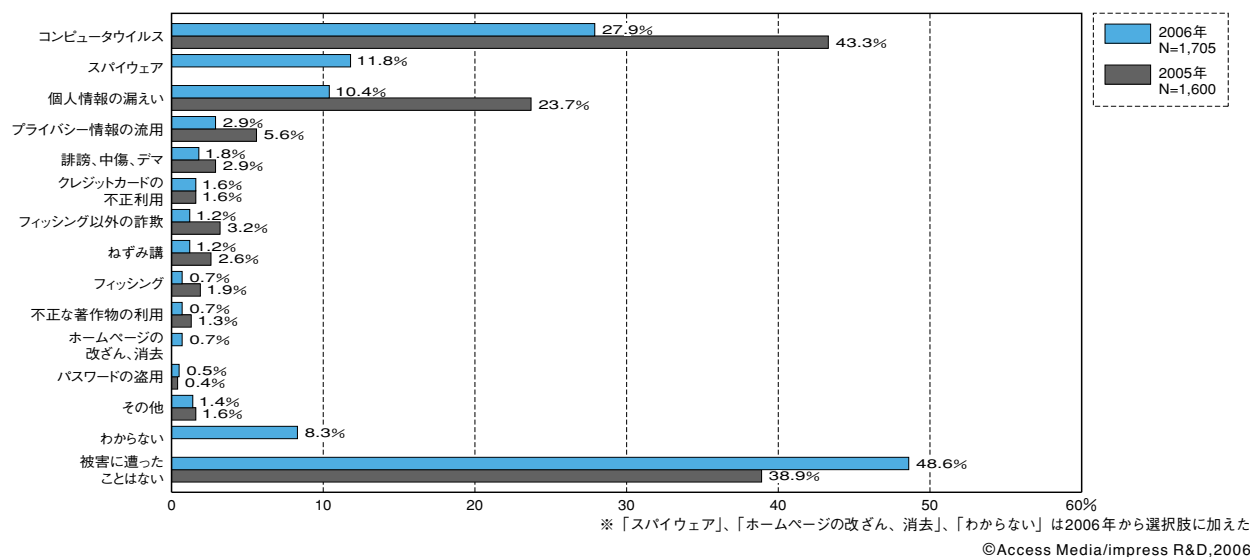
©Access Media/impress R&D,2006

有害情報を目にしたことがあるかどうかを調べた結果であるが、約8割の利用者が、「接触経験がある」と回答している。なかでも、「わいせつ物」「コンピュータウイルス」は高い。ただし、昨年と比較すると上位の有害情報の接触度は減少しており、特に「コンピュータウイルス」に関しては、絶え間ないウイルス被害告知などから個人のセキュリティ意識が高まり、管理体制が整ってきたとの前向きな見方もできる。

被害経験と対策

被害・侵害率は減少傾向

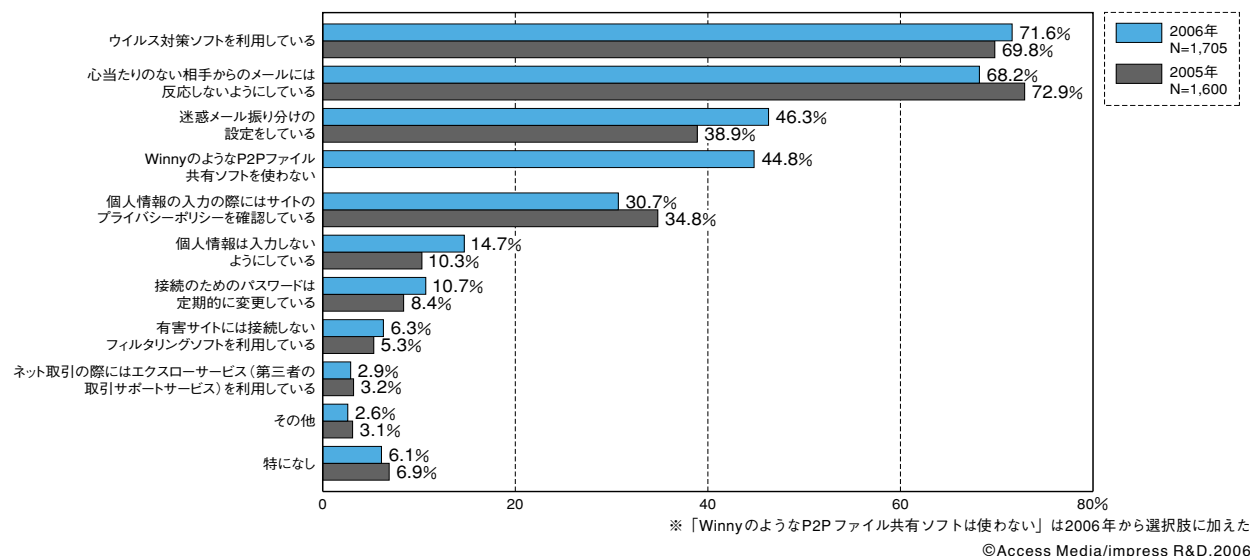
資料2-10-3 迷惑行為の被害経験（複数回答）[2005年－2006年]



迷惑行為の被害や侵害に「遭ったことはない」が48.6%で半数近くを占め、昨年と比較すると被害率は減少している。今年から選択肢に加えた「スパイウェア」は11.8%とコンピュータウイルスに続いて高い。「被害に遭ったことがない」を挙げているのは、インターネット利用歴の浅い利用者が多い。一方、ブログや個人ウェブサイトなどで情報を発信している利用者の被害遭遇率が高いため、セキュリティ対策は必須である。

個人のセキュリティ対策への取り組みは昨年より積極的

資料2-10-4 個人のセキュリティ対策（複数回答）[2005年－2006年]



今年は「コンピュータウイルス」の被害経験が減少傾向にある。個人のセキュリティ対策を実施している平均数は3.18と昨年の2.65から増加していることから、対策効果が出ていると思われる。44.8%が「WinnyのようなP2Pファイル共有ソフトは使わない」を挙げているが、昨今の個人情報漏えいやコンピュータウイルスの被害などに対する個人セキュリティ対策への意識が高まっているものと推測される。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp